

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称 : エタノール、塩化水素

製品名 : エールリッヒ試薬 A-IND2

製品コード : B1015-6

会社名 : シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社

住所 : 〒141-8673 東京都品川区東五反田 3-20-14

電話番号 : 03-4334-9102 コールセンター

作成日 : 2011/06/01

改定番号 : 5.0

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性 :	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	区分 1
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
	健康に対する有害性 :	急性毒性 (経口)
急性毒性 (経皮)		区分外
急性毒性 (吸入: ガス)		分類対象外
急性毒性 (吸入: 蒸気)		区分 3

急性毒性（吸入：粉じん）	分類対象外
急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	区分 1A
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 1
呼吸器感作性	区分 1
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分 1B
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性 （単回ばく露）	区分 1(気道)
特定標的臓器・全身毒性 （単回ばく露）	区分 3(気道刺激性、麻酔作用)
特定標的臓器・全身毒性 （反復ばく露）	区分 1(肝臓、気道、歯、睾丸)
特定標的臓器・全身毒性 （反復ばく露）	区分 2(神経系)
吸引性呼吸器有害性	分類できない
水生環境急性有害性	区分 2
水生環境慢性有害性	区分外

環境に対する有害性：

ラベル要素

絵表示

又はシンボル：



注意喚起語：

危険有害性情報：

危険
 極めて引火性の高い液体および蒸気。
 吸入すると有毒。
 飲み込むと有害。
 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷。
 重篤な眼の損傷。
 吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ。
 遺伝性疾患のおそれ。
 生殖能または胎児への悪影響のおそれ。
 臓器の障害。(気道)
 呼吸刺激を起こすおそれ。
 昏睡およびめまいを起こすおそれ。

長期ないし反復暴露による臓器の障害。(肝臓、気道、歯、睾丸)
長期ないし反復暴露による臓器の障害のおそれ。(神経系)
水生生物に毒性。

注意書き：**【安全対策】**

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
必要な個人用保護具を使用すること。
保護眼鏡、保護面を着用すること。保護手袋、衣類を着用すること。
換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること。
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器、材料取扱機器を使用すること。
火災を発生しない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
容器を密閉しておくこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
環境への放出を避けること。
蒸気を吸入しないこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
取扱い後はよく洗うこと。

【応急措置】

直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚(または毛髪)に付着した場合：直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと／取り除くこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
吸入した場合：新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。

【保管】 涼しい所／換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

【廃棄】 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学名 / 化学式	量	CAS 登録番号	ENCS 番号	ISHL
エタノール/ C ₂ H ₆ O	75.3%	64-17-5	(2)-202	データ無し
塩化水素/ HCl	9%	7647-01-0	(1)-215	データ無し

提供者の現在の知識の範囲および該当する濃度では、本製品の補足的な成分の中には健康または環境に対して有害危険性であると分類されるためこのセクションで報告が義務づけられている成分は含まれていません。

職業性暴露限界がある場合、セクション8に記載されている。

4. 応急措置

吸入した場合：

直ちに医師の診断を受ける。暴露した被災者を新鮮な空気のある場所へ移動させる。煙霧が残存している疑いがある場合、救助隊は適切なマスクあるいは自給式呼吸器を着用しなければならない。被災者を暖かく安静にしておく。呼吸していない場合、呼吸が不規則な場合、あるいは呼吸停止が起きた場合には、適切な訓練を受けた者が人工呼吸あるいは酸素吸入を行う。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。意識がない場合、昏睡位（うつ伏せで顔をやや横向き）にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。火災による分解生成物を吸入した場合、症状は遅れて発生することがある。暴露された人を48時間医師の観察下に置く必要がある。何らかの不快感や症状があるときはそれ以上の暴露を避ける。

飲み込んだ場合：

直ちに医師の診断を受ける。水で口を洗浄する。入歯をしている場合ははずす。暴露した被災者を新鮮な空気のある場所へ移動させる。被災者を暖かく安静にしておく。物質を飲み込んだ場合、被害者の意識があれば少量の水を飲ませる。嘔吐すると危険なことがあるので、もし被害者の気分が悪くなったらそれ以上水を飲ませてはならない。医師の指示がない限り、吐かせてはならない。もし嘔吐が起きた場合は嘔吐物が肺に入らないように頭を低い位置に保つ。化学品による火傷はすみやかに医師による手当てを受けなければならない。意識がない場合、決して口からものを与えてはならない。意識がない場合、昏睡位（うつ伏せで顔をやや横向き）にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状

態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。

皮膚に接触した場合： 直ちに医師の診断を受ける。多量の水で、汚染された皮膚を洗浄する。汚染された衣服および靴を脱がせる。汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。少なくとも10分間洗い流し続ける。化学品による火傷はすみやかに医師による手当てを受けなければならない。衣類は、再着用の前に洗濯する。靴は再使用前に十分に洗浄する。

眼に入った場合： 直ちに医師の診断を受ける。すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。少なくとも10分間洗い流し続ける。化学品による火傷はすみやかに医師による手当てを受けなければならない。

健康への影響と症状の詳細については、セクション11を参照。

5. 火災時の措置

消火媒体

適切： 粉末化学消火剤、炭酸ガス、ウォータースプレー、泡消化剤を使用する。

不適切： ウォータージェットを使用してはならない。

特定の危険有害性： 極めて引火性の高い液体および蒸気。火災の際や加熱された場合、圧力の上昇が起こり、容器が破裂し、その結果爆発が起こるリスクがある。流出物が下水道に流れ込むと、火災や爆発を引き起こす危険性がある。本製品は水生生物に毒性を有する。本物質によって汚染された消火用水は封じ込める必要があり、水路、下水、または排水管に放出してはならない。

有害な熱分解生成物： 分解生成物には以下の物質が含まれることがある：

二酸化炭素、一酸化炭素、窒素酸化物類、ハロゲン化合物

消火を行う者に対する注意事項 火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。危険でなければ、火災現場から容器を移動させる。ウォータースプレーを使用して火気にさらされた容器を冷温に保つ。

消防士用の特殊保護具： 消防士は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェース部分を備えた自給式の呼吸器具（SCBA）を装着しなければならない

ない。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。周辺地域の人々を避難させる。関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。全ての発火源を遮断する。危険地域には、発火信号、煙草、火焰機器を持ち込まない。蒸気や噴霧の吸入を避ける。十分な換気を行う。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護用具を着用する。適切な個人保護用具を使用すること（セクション8を参照）。

環境に対する注意事項 : 漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝、下水道との接触を回避する。製品が環境汚染（排水、水路、土壌または大気）を起したときは、関係する行政当局に報告する。水質汚染物質である。大量に放出されると環境に対して有害である可能性がある。

封じ込めおよび洗浄に関する方法および材料

少量流出 : 危険性がなければ、漏れを止める。漏出区域から容器を移動する。水で希釈してから拭き取るか、もしくは乾燥した不活性物質で吸い取り、適切な廃棄容器に収容する。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。

7. 取扱い及び保管上の注意

安全に取扱うための注意事項 : 適切な個人保護用具を使用すること（セクション8を参照）。本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での飲食および喫煙は厳禁。作業者は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。喘息、アレルギー、慢性または頻発呼吸器疾患の病歴を持つ者を、本製剤が使用されるいかなる工程にも就業させてはならない。暴露を避ける - 使用前に個別の取扱説明書を手にする。妊娠中は暴露を避ける。眼、皮膚および衣類に触れないようにする。蒸気やミストを呼吸しない。摂取してはならない。環境への放出を避けること。換気が十分な場所でのみ使用する。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護用具を着用する。十分な換気がない限り、保管場所および密閉された空間に入らないこと。使用しないときは元の容器又は適合素材で作られた認可済みの代替容器に入れ、密閉して保存する。熱、火花、炎、その他の発火源から離れた場所で保管ならびに使用する。防爆型の電気装置（換気設備、照明用具、物質取扱い用具）を使用する。火災を発生しな

い工具を使用すること。静電気防止対策を講じる。火災や爆発を防止するため、容器を接地して運搬中の静電気を放電させると共に、物質を移し換える前に容器と用具を電氣的に接続する。容器が空でも製品の残留物が残存していて有害危険性がある。容器を再利用してはならない。

**安全に保管する：
ための注意事項** 現地法に従って保管する。隔離され認定された場所に貯蔵する。元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷所で直射日光を防ぎ、混合禁止物質（セクション 10 を参照）および飲食物から離して保存する。あらゆる発火源を除去する。酸化性物質に近づけない。使用直前まで、容器は固く閉め封印して保管する。いったん開けた容器は入念に再密閉し、漏出を防ぐため直立させて保管する。ラベルのない容器に保管してはならない。環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

・塩化水素

管理濃度：未設定

許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

日本産業衛生学会：5ppm 7.5mg/m³(最大許容濃度) (2009 年版)

ACGIH：STEL (C) 2ppm (2009 年版)

・エタノール

管理濃度：未設定

許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

日本産業衛生学会：未設定 (2009 年版)

ACGIH：STEL 1000ppm(2009 年版)

推奨される測定方法： 当製品が暴露限界を有する物質を含む場合、個人、作業場の空気、あるいは生物学的なモニタリングを行い、換気等の管理手段の有効性、および呼吸器保護具を使用する必要性、あるいはそのいずれかを明らかにする必要がある。

適切な技術的管理： 換気が十分な場所でのみ使用する。行程囲壁、局所排気通風装置あるいはその他の技術的管理設備を使用し、作業者が暴露される空中浮揚汚染物質濃度をあらゆる推奨あるいは法定暴露限界以下に保つ。ガス、蒸気あるいは塵埃の濃度を暴露限界以下に保つためには技術的な管理も必要となる。防爆型換気装置を使用する。

環境暴露管理： 換気装置および作業工程装置からの排出物を検査し、環境保護の法律規制の要件に適合していることを確認しなければならない。場合によっては排出物を許容レベル以下に下げのために煙霧清浄機やフィルター、あるいは行程装置の技術的改良が必要になるこ

ともある。

個人の保護措置

- 衛生措置：** 化学製品の取り扱い後は、食事、喫煙およびトイレの使用前および作業時間の最後に、必ず手、前腕および顔を洗う。汚染された可能性のある衣類を取り除く際には、適切な技術を用いる。汚染された衣類は、再着用の前に洗濯する。作業場所の近くに洗眼スタンドと安全シャワーが設置されていることを確認する。
- 呼吸器の保護具：** リスク評価により必要性が示されたときは、承認された基準に合格した、身体に良く合った空気清浄機能付きまたは給気式の呼吸保護具を使用する。使用する呼吸保護具は、既知もしくは予測される暴露量、製品の危険有害性、選択される呼吸保護具の安全作動限度に基づいて選択しなければならない。
- 手の保護具：** リスク評価によって必要とされるときは、化学製品の取り扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不浸透性の手袋を常に着用する。
- 目の保護具：** リスク評価によって必要とされるときは、液体の飛まつ、ミスト、ガスあるいは塵埃への暴露をさけるため、承認された基準に合格した安全眼鏡を着用する。
- 皮膚の保護：** 作業者の身体保護衣は、行う作業の内容および関連するリスクに基づいて選択しなければならない。さらにこの製品を取り扱う前に専門家の承認を受けなければならない。

9. 物理的及び化学的性質

外 観

- 物理的性質：** 液体
- 色** 透明な黄色
- 臭い：** アルコール臭
- 融点：** 分解する
- 引火点：** 開放式： 20°C (68°F)
- 引火性：** 次の物質および条件の存在下で極度に引火性：
裸火、火花、および放電 および 熱
- 溶解度：** 以下の物質に容易に溶解する： 冷水 および 温水。

10. 安定性及び反応性

- 化学的安定性：** 製品は安定である。

危険な反応の可能性：	通常の貯蔵および使用条件下で、有害な反応は起こらない。
避けるべき条件：	いかなる発火源（火花あるいは炎）にも近づけてはならない。加圧、切断、溶接、ロウ付け、はんだ付け、穴あけ、研削を行ってはならず、容器を熱源や発火源に近づけてはならない。環境への放出を避けること。
混触危険物質：	次の物質と反応性あるいは危険配合性：酸化性物質
危険有害な分解生成物：	通常の保管及び使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

最も重要な健康効果

健康への急性効果の可能性

吸入した場合：	吸入すると有毒。中枢神経機能低下を引き起こす可能性がある。昏睡およびめまいを起こすおそれ。呼吸刺激を起こすおそれ。吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ。分解生成物に暴露すると、健康を害することがある。爆発に続いて重大な影響が遅れて発生することがある。
飲み込んだ場合：	飲み込むと有害。中枢神経機能低下を引き起こす可能性がある。口、喉および胃に火傷を起こすことがある。
皮膚に接触した場合：	重度のやけどを引き起こす。
眼に入った場合：	重篤な眼の損傷。

健康への慢性効果の可能性

概要：	長期ないし反復暴露による臓器の障害。
吸入した場合：	一度感作されると、それ以後非常に低濃度に暴露しても重度のアレルギー反応を起こすことがある。
飲み込んだ場合：	重大な作用や危険有害性は知られていない。
皮膚に接触した場合：	重大な作用や危険有害性は知られていない。
眼に入った場合：	重大な作用や危険有害性は知られていない。
発がん性：	重大な作用や危険有害性は知られていない。
変異原性：	遺伝性疾患のおそれ。
催奇性：	重大な作用や危険有害性は知られていない。
発育への影響：	重大な作用や危険有害性は知られていない。

生殖能力に対する影響： 重大な作用や危険有害性は知られていない。

物理的・化学的および毒物学的な特性に関連する症状

- 吸入した場合：** 有害症状には以下の症状が含まれる：
 気道の刺激、咳、吐き気または嘔吐、頭痛、眠気/疲労、浮動性のめまい/回転性のめまい、意識不明
- 飲み込んだ場合：** 有害症状には以下の症状が含まれる：胃痛
- 皮膚に接触した場合：** 有害症状には以下の症状が含まれる：痛み及び刺激、発赤、水ぶくれになることがある
- 眼に入った場合：** 有害症状には以下の症状が含まれる：
 痛み、流涙、発赤

急性毒性

製品 / 成分の名称
 エタノール

結果	種類	投与量	暴露時間
LD50 動脈内	ラット	11 mg/kg	-
LD50 腹腔内	ラット	3600 ug/kg	-
LD50 静脈内	ラット	1440 mg/kg	-
LD50 経口	ラット	7 g/kg	-
LD50 経口	ラット	15010 mg/kg	-
LD50 経口	ラット	7060 mg/kg	-
LDL _o 皮膚	ウサギ	20000 mg/kg	-
LDL _o 経口	ラット	7000 mg/kg	-
TDL _o 腹腔内	ラット	3500 mg/kg	-
TDL _o 脳内	ラット	106 ug/kg	-
TDL _o 腹腔内	ラット - オス	3000 mg/kg	-
TDL _o 腹腔内	ラット	2700 mg/kg	-
TDL _o 腹腔内	ラット	2500 mg/kg	-
TDL _o 腹腔内	ラット	2000 mg/kg	-
TDL _o 腹腔内	ラット - オス	1.25 mg/kg	-
TDL _o 腹腔内	ラット	1000 mg/kg	-
TDL _o 脳内	ラット	363.6 ug/kg	-
TDL _o 腹腔内	ラット	500 mg/kg	-
TDL _o 静脈内	ラット	0.5 g/kg	-
TDL _o 経口	ラット - オス	5 mL/kg	-
TDL _o 経口	ラット	4.44 mL/kg	-
TDL _o 経口	ラット	4 mL/kg	-
TDL _o 経口	ラット - メス	10 mL/kg	-
TDL _o 腹腔内	ラット - オス	1.5 g/kg	-
TDL _o 経口	ラット	12800 mg/kg	-
TDL _o 経口	ラット	6000 mg/kg	-
TDL _o 腹腔内	ラット	1.2 g/kg	-
TDL _o 経口	ラット - オス	5250 mg/kg	-
TDL _o 経口	ラット	5000 mg/kg	-
TDL _o 経口	ラット - メス	4800 mg/kg	-
TDL _o 経口	ラット	2 g/kg	-
TDL _o 経口	ラット	4300 mg/kg	-
TDL _o 腹腔内	ラット	2.45 g/kg	-
TDL _o 経口	ラット	5 g/kg	-
TDL _o 腹腔内	ラット - オス	1 g/kg	-
TDL _o 経口	ラット	6 g/kg	-
TDL _o 経口	ラット - オス	5.25 g/kg	-
TDL _o 経口	ラット - オス	1600 mg/kg	-

TDL _o 経口	ラット	1500 mg/kg	-
TDL _o 経口	ラット	0.5 g/kg	-
TDL _o 経口	ラット	3 g/kg	-
TDL _o 経口	ラット	8000 mg/kg	-
TDL _o 経口	ラット	0.4 g/kg	-
TDL _o 経口	ラット	2.5 g/kg	-
TDL _o 腹腔内	ラット - オス	2 g/kg	-
TDL _o 経口	ラット	6.4 g/kg	-
TDL _o 経口	ラット	0.72 g/kg	-
TDL _o 皮下	ラット	7900 mg/kg	-
TDL _o 腹腔内	ラット	0.5 g/kg	-
TDL _o 腹腔内	ラット	0.25 g/kg	-
TDL _o 未報告	ラット	3 g/kg	-
TDL _o 腹腔内	ラット - オス	2.4 mg/kg	-
LC50 吸入した場合 蒸気	ラット	124700 mg/m3	4 時間
LC50 吸入した場合 蒸気	ラット	5900 mg/m3	6 時間
LC50 吸入した場合 ガス。	ラット	20000 ppm	10 時間

<u>慢性毒性</u>	データ無し
<u>刺激性/腐食性</u>	データ無し
<u>感光薬</u>	データ無し
<u>発がん性</u>	データ無し
<u>変異原性</u>	データ無し
<u>催奇性</u>	データ無し
<u>生殖毒性</u>	データ無し
<u>その他の情報：</u>	データ無し

12. 環境影響情報

環境作用：本製品は水生生物に対して有害である。

水中毒性

製品 / 成分の名称	テスト	結果	種類	暴露時間
エタノール	-	急性 EC50 >100 ppm 真水	ミジンコ属 - Water flea - Daphnia magna - <24 時間	48 時間
	-	急性 EC50 2000 ug/L 真水	ミジンコ属 - Water flea - Daphnia magna	48 時間
	-	急性 LC50 13 ~ 16 ml/L 真水	魚類 - Rainbow trout, donaldson trout - Oncorhynchus mykiss - 0.8 g	96 時間
	-	急性 LC50 6772000 ~ 7710000 ug/L 真水	ミジンコ属 - Water flea - Ceriodaphnia dubia - Neonate	48 時間
	-	急性 LC50 6386000 ~	ミジンコ属 - Water flea -	48 時間

-	7461000 ug/L 真水 急性 LC50 6325000 ~	Ceriodaphnia dubia - Neonate ミジンコ属 - Water flea -	48 時間
-	7413000 ug/L 真水 急性 LC50 6076000 ~	Ceriodaphnia dubia - Neonate ミジンコ属 - Water flea -	48 時間
-	7115000 ug/L 真水 急性 LC50 5577000 ~	Ceriodaphnia dubia - Neonate ミジンコ属 - Water flea -	48 時間
-	6557000 ug/L 真水 急性 LC50 3715000 ~	Ceriodaphnia dubia - Neonate ミジンコ属 - Water flea -	48 時間
-	4432000 ug/L 真水 急性 LC50 >100000 ug/L 真水	Ceriodaphnia dubia - Neonate 魚類 - Fathead minnow - Pimephales promelas -	96 時間
-	急性 LC50 42000 ug/L 真水	Juvenile (Fledgling, Hatchling, Weanling) - 0.2 ~ 0.5 g 魚類 - Rainbow trout, donaldson trout - Oncorhynchus mykiss	4 日
-	急性 LC50 25500 ug/L 海水	甲殻類 - Brine shrimp - Artemia franchiscana - LARVAE	48 時間
-	急性 LC50 13480000 ug/L 真水	魚類 - Fathead minnow - Pimephales promelas - Juvenile (Fledgling, Hatchling, Weanling) - 4 ~ 8 週 - 1.1 ~ 3.1 cm	96 時間
-	急性 LC50 5680 ~ 7392 mg/L 真水	ミジンコ属 - Water flea - Daphnia magna - Neonate - <24 時間	48 時間
-	急性 LC50 10000000 ~ 11500000 ug/L 海水	魚類 - Bleak - Alburnus alburnus - 8 cm	96 時間
-	急性 LC50 11000000 ug/L 海水	魚類 - Bleak - Alburnus alburnus - 8 ~ 10 cm	96 時間
-	急性 LC50 14200000 ~ 15100000 ug/L 真水	魚類 - Fathead minnow - Pimephales promelas - 30 日 - 19.4 mm - 0.099 g	96 時間
-	慢性 NOEC <6.3 g/L 真水	ミジンコ属 - Water flea - Daphnia magna	48 時間

塩化水素	-	急性 LC50 282000 ug/L 真水	魚類 - Western mosquitofish - Gambusia affinis - Adult	96 時間
	-	急性 LC50 260000 ug/L 海水	甲殻類 - Common shrimp - Crangon crangon - Adult	48 時間
	-	急性 LC50 240000 ug/L 海水	甲殻類 - Green or European shore crab - Carcinus maenas - Adult	48 時間

水生毒性 データ無し

生物分解性 データ無し

生物濃縮の可能性

製品 / 成分の名称	LogP _{ow}	BCF	可能性
エタノール	-0.3	-	低
塩化水素	0.25	-	低

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物:

廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要があります。空の容器や中袋に製品が残留している可能性がある。この材料およびその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。この製品、製品の溶液およびあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護および廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、および現地法の定める要求事項に従わなければならない。漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。

14. 輸送上の注意

適用法令	国連番号	輸送固有名称	クラス	PG*	ラベル	追加情報
IMDGクラス	2924	FLAMMABLE LIQUID, CORROSIVE, N.O.S. (ethanol, Hydrogen chloride)	3 (8)	II		-
IATA クラス	2924	Flammable Liquid, Corrosive, NOS (ethanol, Hydrogen chloride)	3 (8)	II		Passenger and Cargo Aircraft Quantity limitation: 1 L Cargo Aircraft Only Quantity limitation: 5 L

PG* : パッキンググループ

15. 適用法令

労働安全衛生法 [名称等通知]	名称等を通知すべき危険物及び有害物：該当 第 57 条の 2(令第 18 条の 2)名称等を通知すべき有害物 塩化水素：政令番号第 98 号
------------------------	--

	エタノール：政令番号第 61 号
〔名称等表示〕	該当せず
	塩化水素：特定化学物質第 3 類物質（特定化学物質障害予防規則第 2 条第 1 項第 6 号） 腐食性液体（労働安全衛生規則第 326 条）
	エタノール：危険物・引火性の物（施行令別表第 1 第 4 号）
毒物及び劇物取締法	該当せず
化学物質排出把握管理促進法 （P R T R 法）	該当せず

16. その他の情報

我々の知る限りにおいて、ここに記載した情報は正確です。しかしながら、上記の供給業者あるいはその子会社のいずれも、ここに記載した情報の正確さあるいは完全性に関していかなる責任も負うものではありません。あらゆる物質の適合性は、ご使用各位の責任において決定してください。全ての物質は未知の危険有害性を含んでいる可能性があるため、取り扱いには細心の注意が必要です。ここには特定の危険有害性が記載されていますが、これらが存在する唯一の危険有害性であることが保証されているものではありません。